

## (一般質問)

質問日	令和5年9月29日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	5	会派名	自由民主党浜松	議席番号	14	氏名	小泉 翠
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 豪雨災害から市民を守るために	<p>本年6月2日の台風第2号に伴う線状降水帯による豪雨では、市内で床上床下浸水合わせて130戸を超える物的被害に加え人的被害も出るなど、大雨の状況は新たなステージに進んだと言わざるを得ない。</p> <p>今後の豪雨対策もこれまでの常識を超えた対策を行っていく必要があるが、以下伺う。</p> <p>(1) 大雨・台風等で設置される緊急避難場所について、芳川地区では芳川北小学校及び南陽中学校が緊急避難場所として開設されず、南陽中学校については体育館が浸水被害に遭うなど、地域住民は大雨時の避難に大きな不安を感じている。そこで、近くに緊急避難場所がない地域の避難について、市としてどのように取り組んでいくのか伺う。</p> <p>(2) 台風の大型化や集中豪雨、線状降水帯の発生など昨今の状況により、地域の水防団の活動はより重要なものになっている。水防団は活動に当たり団員所有の自家用車を使用する場合がありますが、6月豪雨ではパトロール中に団員の自家用車が浸水被害に遭ったと聞いている。</p> <p>ア 水防団の活動に当たり、被害に遭った団員所有の自家用車の補償に対する考え方について伺う。</p> <p>イ 今後の資機材の充足について、どのように取り組んでいくのか伺う。</p> <p>(3) 河川沿いの自治会では樋門の開閉を地域住民が担っている箇所があるが、樋門によっては開閉の作業が困難な箇所もあり、大雨の降る中での作業は、担当者に危険が及ぶ可能性もあるなど、大きな負担となっている。設置から年数が経ち、開閉作業が困難な樋門は更新していくべきと考えるが、本市の方針を伺う。</p>						石田危機管理監  伏木土木部長  〃
2 公園の暑さ対策について	<p>本夏は暑い日が非常に多く、熱中症警戒アラートが連日発出され、7月、8月を通して昨年を大幅に上回る回数であった。</p> <p>子どもたちは大人に比べて熱中症になるリスクが高く、特に地面からの照り返しなど輻射熱が大きな場所はさらにリスクが高くなる。今年のように熱中症警戒アラートが連日発出されるような夏は、子どもの遊び場が限られてしまうという声を多く聞いた。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 本市内の公園における暑さ対策を伺う。</p> <p>(2) 公園内に設置されている遊具は炎天下で高温になり、</p>						中村花みどり 担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

	<p>使用者にやけどの危険もあると考えるが、どのように危険を周知しているのか伺う。</p> <p>(3) 遊具に使用する塗料を熱交換塗料にすることで、やけどのリスクを減らし、子どもたちが使用できる期間も伸びると考えるが、本市の見解を伺う。</p>	
3 児童養護施設などで暮らす子どもたちへの支援について	<p>令和5年4月に施行されたこども基本法は、「全てのこどもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的」とし、こども施策の6つの理念の中には、「家庭で育つことが難しいこどもも、家庭と同様の環境が確保されること」とされている。様々な事情で家庭を離れ、児童養護施設などで暮らす子どもたちにも、標準的な家庭環境と同様な環境を提供することが求められており、先日、静岡県児童養護施設協議会からも要望が提出されたところである。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 子どもが習い事等の学習体験を希望する場合にかかる費用の支援について伺う。</p> <p>(2) 高校を卒業して就職する生徒に対し、自動車運転免許証を取得する費用の支援を行っているが、大学等に進学後、就職する学生も経済状況は変わらず、同様に支援が必要と考えるが、支援を拡充する考えはあるのか伺う。</p>	吉積こども家庭部長
4 不登校児童・生徒への支援について	<p>児童・生徒数は減少の一途をたどる一方、小・中学校の不登校児童・生徒数は年々増加している。</p> <p>平成28年に教育機会確保法が成立し、平成29年には同法に基づく基本方針が策定され、個々の不登校児童・生徒の状況に応じた必要な支援をすること、その際、学校への登校という結果のみを目標にせず、児童・生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的自立を目指す、との方針が明確化された。</p> <p>本市としても校外及び校内まなびの教室を開設し、一人一人に寄り添った支援と学びの保障に取り組んでいるが、令和4年度の校外及び校内まなびの教室の利用者は不登校児童・生徒の32.1%にとどまっている。不登校の児童・生徒にとって、まなびの教室以外にも安心できる居場所があることが重要である。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) まなびの教室以外のフリースクール等に通っている児童・生徒の状況をどのように把握しているのか伺う。</p> <p>(2) 静岡県は、フリースクール等に通う児童・生徒やその保護者に対する支援策を検討する会議を開催しているところだが、本市としてフリースクール等との連携に向けた今後の取組について伺う。</p>	宮崎教育長

<p>5 人的資本投資としての健康経営の促進について</p>	<p>少子高齢化、人口減少が進む日本の社会においては、労働力不足が大きな社会問題になりつつあり、働く世代の活力向上や健康寿命の延伸が今後ますます重要になっていくと考える。国の骨太方針2023では、人的投資による持続的な経済成長を標榜しており、産業都市として発展してきた本市においても将来を見据えた取組が必要と考える。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 地域企業の健康経営は、地域の発展に重要と考えるが、本市の考えを伺う。</p> <p>(2) 健康経営を推進していくための具体策及び今後の方針を伺う。</p>	<p>藤野ウエルネス推進事業本部長</p>
<p>6 未来への投資について</p>	<p>本市はこれまで「将来世代にツケを残さない」として、市債の削減をはじめ財政の健全化に努めてきた。人口減少、高齢化がさらに進んでいく中、持続可能な市政のために規律ある財政運営を行っていく重要性は理解している。一方で、今必要な事業を実施しないことは本市の魅力低下につながり、ひいては将来世代にツケを残すことになると考える。</p> <p>将来世代が本市に魅力を感じ、本市に住み続けたいという気持ちを持つことが重要であり、そのような本市をつくっていくことが、我々現役世代の責務であると考え</p> <p>る。</p> <p>そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 施設やインフラの老朽化は全国共通の課題であるが、本市における令和2年度決算ベースの有形固定資産減価償却率は68.2%と、政令市平均よりも高くなっている。市民の生活に身近な施設を適切に保つことは市民生活の満足度向上にもつながると考えるが、本市の状況とその対応について伺う。</p> <p>(2) 財政調整基金をはじめとする基金は、適正規模を保つことも必要であるが、一定程度投資に回すことも必要と考える。本市の現状と考えを伺う。</p> <p>(3) 令和6年度の予算編成に関し、ハード・ソフト両面における未来への投資と負担のバランスについて、考えを伺う。</p>	<p>石切山財務部長</p> <p>”</p> <p>中野市長</p>